

参加申込要領

● お申し込み方法

WEBにてお申し込みを受付けます。『PMシンポジウム2007』の案内ページをご参照ください。
<http://www.pmaj.or.jp/sympo/2007/main.html>

● 参加申込み期限

8月20日(月) [早期割引申込み期限7月30日(月)]

※申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきます。早めのお申込みをお勧めいたします。

● お支払い方法

お申込み受付後、電子メールにて参加費等を記載したお申込み受け付けデータをお送りいたします。
 早期割引適用の方は8月3日(金)までに、それ以外の方は8月20日(月)までに下記の口座にお振込みください。
 また、お振込み時には、参加者名及び電子メールに記載されていますお申込み番号を必ずご記入ください。

※企業名で振込みの場合は、事前に参加者名及び申込み番号を事務局までお知らせ下さい。
 ※請求書払いをご希望の場合は、余裕をもって申込みをお願いいたします。
 ※恐れ入りますが振込み手数料はご負担ください。
 ※参加証は、参加費のご入金を確認させていただいた後、電子メールにてお送りさせていただきます。
 ※お申込み後のキャンセル取扱いは、ホームページをご参照ください。

口座名：三菱東京UFJ銀行 本店 普通0737079
 名義人：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会 (トクヒ)ニホンプロジェクトマネジメントキョウカイ

● お問い合わせ

日本プロジェクトマネジメント協会・事務局
 E-mail: admi-sympo@pmaj.or.jp TEL.03-3539-3022 FAX.03-3539-1741

● 参加費 注) 参加申込み時にPMAJに入会申込みの場合は会員扱いとなります。
 会費及びシンポジウム参加費の入金確認後、電子メールにて参加証をお送りいたします。

	8月30日(木)		懇親会 通常申込みのみ	8月31日(金)			
	シンポジウム			セミナー・ワークショップ			
	7/30まで(早期割引)	7/31以降(通常申込)		7/30まで(早期割引)	7/31以降(通常申込)		
PMAJ個人正会員	7,000円	8,000円	5,000円	8,000円 (半日講座)	16,000円 (1日講座)	9,000円 (半日講座)	18,000円 (1日講座)
PMAJ法人正会員および ENAA賛助法人会員の社員または職員 PMI会員及びITC協会会員	9,000円	10,000円	5,000円	10,000円 (半日講座)	20,000円 (1日講座)	11,000円 (半日講座)	22,000円 (1日講座)
一般参加者	12,000円	13,000円	5,000円	13,000円 (半日講座)	26,000円 (1日講座)	14,000円 (半日講座)	28,000円 (1日講座)
学 生	3,000円		5,000円	10,000円 (半日講座)	20,000円 (1日講座)	11,000円 (半日講座)	22,000円 (1日講座)

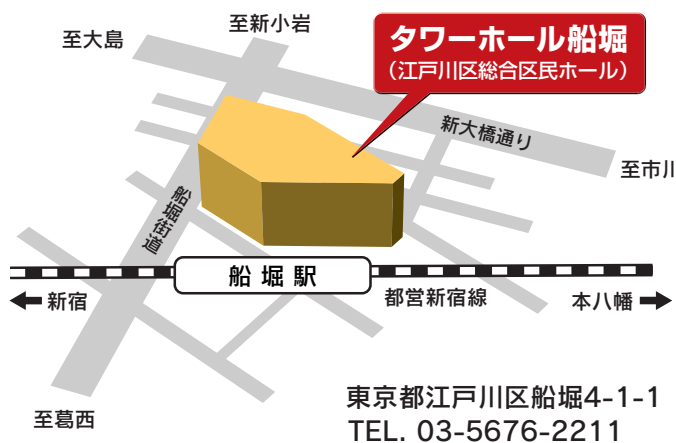
ENAA ((財)エンジニアリング振興協会)

ENAAは、プロジェクトマネジメントをはじめとするエンジニアリング技術向上・普及を目的として、1978年に設立されました。エンジニアリング、造船重機、鉄鋼、電機通信、産業機械、総合建設企業など200社が会員となっています。

PMAJ (NPO法人日本プロジェクトマネジメント協会)

PMAJは、プロジェクトマネジメント資格認定センター(PMCC)と日本プロジェクトマネジメント・フォーラム(JPMF)が統合されて2005年11月に発足した協会です。現在、個人会員数は3,000名、法人会員数は110社です。P2M資格試験やPMシンポジウム、例会、PM研修、国際交流、機関誌の発行を通じて実践的PMの普及活動を行っています。

ACCESS 都営新宿線 船堀駅下車 徒歩1分



ENAA/PMAJ 国内最大のPM大会

PMシンポジウム

Project Management Symposium Japan 2007

2007 8月30日(木)・31日(金)
 タワーホール船堀 江戸川区総合区民ホール

基調講演1
 「わが国製品開発の国際競争力の根源」
 広島大学 教授 日野 三十四

基調講演2
 「ITプロジェクトの課題と方向」
 富士通株式会社 常務理事 梅村 良

新たな創造と成長のための プロジェクトマネジメント PM力を鍛える

注目企画

1. 新たな創造と成長のために(P2Mの視点)
2. 組織と人の視点(PM力を鍛えるために)
3. 参加型シンポジウム

主 催：財団法人エンジニアリング振興協会(ENAA)
 特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)
 後 援：経済産業省
 協 賛：社団法人情報サービス産業協会、特定非営利活動法人ITコーディネータ協会

PMシンポジウム2007 開催のご案内

日本経済は概して好調を持続しておりますが、少子高齢化、サービス産業の生産性向上、あるいは世代間の技術やマネジメントノウハウの伝承といった、今後の我が国の競争力に影響を与える課題も少なくありません。これらの課題を解決して明日を切り拓くことが求められています。

これには種々の面でのイノベーションが必要ですが、これを推進する体系の一つとしてプロジェクトマネジメントに期待されることと果たすべき役割は何か、今回のシンポジウムはこの視点から考えます。

1. 新たな創造と成長のために（P2Mの視点）

ビジネス・事業等の経営或いは運営のレベルから、個別プロジェクトの推進のレベルまで、プログラム&プロジェクトマネジメントの観点から広く捉えます。これに伴いトラックの構成も、金融・保険並びにPMの新機軸両トラックの新設と公共の追加(エンジ・建設・公共トラックへの組み換え)を行います。

2. 組織と人の視点（PM力を鍛えるために）

これからの創造と成長のため、またこれまで積み上げて来た基盤を失わないようにするためには、組織と人の両方を強くする必要があります。PM力を失わない、伝承する、鍛える、それを“組織”とその構成要素である“人”の両面から考えます。

3. 参加型シンポジウム

CFP(公募に基づく講演)も引き続き実施します。優れた応募作が多く定着して来ました。またセミナー/ワークショップでの頭と手を動かしての能動的な関わりにもご期待下さい。



ITトラック

エンジ・建設・公共トラック

P2Mトラック

製造・サービストラック

PMの新機軸トラック

金融・保険トラック

PM人材育成トラック

PMシンポジウム2007は、各種ポイントの認定対象となります。

CPU

発給ポイントは以下の通りです。(1時間当たり2ポイントが基本となります。)

- 1日目(全時間出席の場合):10.5ポイント
- 2日目(半日講座): 5ポイント
- 2日目(1日講座):11ポイント

CPU取得証明書を発行いたします。

PDU

ENAAはPMI®認定教育プロバイダー(REP)であり、本大会は、初日シンポジウム並びに2日目のセミナー共にPMP®向けのPDU発給対象となっております。発給ポイントは以下の通りです。

- 1日目:7PDU
- 2日目(半日講座):3PDU
- 2日目(1日講座):6PDU

ご注意 PMI®へのPDU申請は必ず一括で行って下さい(初日・2日目を分割するとエラーになります)。また、PMP®資格認定試験受験用証明書も発給致します。

知識ポイント(ITコーディネータ)

ITコーディネーター資格者には、協賛(後援)により4時間当たり1ポイント相当(上限なし)の「知識ポイント」が付与されます。

各種**ポイント**の
認定対象となります

- CPU
- PDU
- PM教育受講証明
- 知識ポイント

PMシンポジウム 2007 基調講演

1日目 午前

基調講演1 わが国製品開発の国際競争力の根源

8月30日 10:00~ モジュラー・デザインを中心としたプログラム展開について

広島大学 大学院社会科学部研究科マネジメント専攻 教授 日野 三十四

21世紀の製造業は、日本、韓国、中国、インドなどのアジアの時代であるが、アジア各国間の激しい競争の時代でもある。台頭するアジア各国に日本が対抗する根源は、製品開発において 1)ハイテク・ハイタッチ 2)アジャイル 3)モジュラー・デザインを実現することである。

ハイテク・ハイタッチは、日本メーカーの一般的なイノベーションの原点であり、先端的なハイテク・ハイタッチ商品開発理論を紹介する。アジャイルについては、世界のトヨタ自動車が21世紀初めに開発期間を半減した方策を解説する。

モジュラー・デザインは、ますます多様化する顧客志向に少数のモジュラー部品の組み合わせで対応することによって、顧客満足、会社満足、環境満足を同時実現する21世紀型のリーンな設計方法論である。ハイテク・ハイタッチとアジャイルは、模倣、学習、ITの導入などによってアジア各国もいずれ追いついてくるが、モジュラー・デザインは製品多様化と部品少数化という二律背反を克服する方法なので、容易に模倣できない組織のコア・コンピタンスになる。モジュラー・デザインを習得する条件は、二律背反を克服する「擦り合わせ」能力が高いこと、および製品群全体を対象としたプログラムマネジメント的活動に対応能力があることであり、日本企業での実現の可能性は高い。講演者が20年近く理論的研究と自動車・重機・電気・電子製品で検証を重ねて開発した方法であり、その要点を解説する。併せて、近年、製品の品質と開発期間のボトルネックになりつつある製品組み込みソフトウェアのモジュラー化の理論的アプローチ法を提言する。



■講演者略歴 1968年、東北大学工学部卒業、同年、東洋工業(現マツダ)入社、ロータリーエンジンの研究開発に従事。1980年ごろ、経営管理・経営工学分野に傾斜、トヨタ自動車のベンチマーキングを開始。1988年、技術管理部門に依願転籍 技術標準化、モジュラー・デザイン、品質改善、製品開発システム化などを推進。2000年、マツダを退社。2002年、『トヨタ経営システムの研究-永続的成長の原理-』(ダイヤモンド社)出版・2003年 日本ナレッジ・マネジメント学会から研究奨励賞受賞・2003年 韓国と台湾で翻訳出版・2005年 米国で翻訳出版・2007年 米Shingo Prizeから2007年研究賞受賞

2003年~ 韓国の電気・電子製品会社、日本の重工業会社・電気製品会社などでモジュラー・デザインを指導。2004年~ 広島大学大学院教授に就任 製品開発論、生産管理論、経営学、経営情報論、MOT論担当。

基調講演2 ITプロジェクトの課題と方向

8月30日 11:05~ 変化する環境と実戦力のあるPM育成

富士通株式会社 常務理事 SIAシニアランス本部長 梅村 良

経営とITの一体化ということが言われている。これはITを独立してマネジメントしようとしてもダメで人間系を含むリアルワールドとITシステムを統合してマネジメントする必要があるということである。そのためにはマネジメント側からPDCAサイクルでみる見方(鳥の目)と現場に即して見る見方(虫の目)をもう一度統合しなおす必要がある。これはITシステムを使用するユーザ、提供するベンダに共通の課題であるが、富士通では「フィールドイノベーション」と呼んで取り組んでいる。

ITプロジェクトのマネジメントもこのような環境の変化に則して変わっていかねばならないが、現実にはプロジェクトの失敗は絶えることがない。これは一つには複雑化する要件定義に係わる上流工程の問題、もう一つは知識だけはあるが実戦力を伴わないPMとSEの増加が主要な原因と考えられる。要件定義はユーザ側の責任で行うべきことであるが、ベンダはそのための技法、サポートする人材を提供しなければならない。当社ではフィールドワーク手法により現場の実態の可視化、夢を売るコンサルとシステム開発をつなぐビジネスアーキテクトの育成に取り組んでいる。また、大規模プロジェクトについては社長直轄組織で徹底したリスクマネジメントを行うと共に、失敗プロジェクトの実情をリアルに語り、問題を共有し、実戦に活かす取り組みを行っている。

本講演では事例を含みこれらの取り組みを紹介することによりITプロジェクト改善への一助としたい。



■講演者略歴 1970年東京大学工学部計数工学科(数理コース)卒業。同年富士通(株)入社。以来30年にわたり、フィールドSEとして大規模プロジェクトのプロジェクトマネージャを務める。2001年PMO機能の立ち上げに従事し、問題プロジェクトの火消し等を実施。2005年SIAシニアランス本部発足に伴い、本格的に不採算プロジェクトの撲滅、SIビジネスの健全化に従事し、現在に至る。

8月30日(木) 09:15~17:30

2F 桃源にて展示ブース及びドリンクサービスを設置します。

■18時より20時まで懇親会が催されます。

午前		午後							夕方	
5F 大ホール (定員750名) 小ホール (定員300名) ※大ホールが満席の場合は、小ホール (映像による中継)にて聴講いただけます。		ITトラック	エンジ・建設・公共トラック	P2Mトラック	製造・サービストラック	PMの新機軸トラック	金融・保険トラック	PM人材育成トラック	2F 瑞雲	
09:15 開場、受付開始		5F 大ホール (定員750名)	4F 研修室 (定員84名)	4F 401 (定員63名)	2F 瑞雲 (定員135名)	5F 小ホール (定員300名)	2F 福寿 (定員135名)	2F 平安 (定員135名)	懇親会	
09:45 10:00 開会ご挨拶 「主催者挨拶」 「来賓ご挨拶」		13:10 14:00 [IT-1] プロジェクトマネジャーに必須の法務知識 あなたの業務は、新しい法務知識でどのように変わるか 梶原 定 (ゼッタテクノロジー)	13:10 14:00 [EG-1] なぜ、日本が太陽光発電で世界になれたのか 技術力とPM力が支える新エネルギーエンジニアリングの進化 山本 泰司 (新エネルギー・産業技術総合開発機構)	13:10 14:00 [PA-1] 旭硝子における技術・技能強化伝承活動の全社展開について P2Mの視点からの振り返り 林 英男 (旭硝子)	13:10 14:00 [MS-1] 国際宇宙ステーションにおけるソフトウェアの安全・開発保証管理 長谷川義幸 (宇宙航空研究開発機構) 酒井 純一 (宇宙航空研究開発機構) 上杉 正人 (宇宙航空研究開発機構) CFP	13:10 14:00 [NT-1] 事業再生にみる組織改革の要諦 「産業再生機構」の経験から 秋池 玲子 (ホストンコンサルティンググループ)	13:10 14:00 [FI-1] ユーザ企業から見たITプロジェクトマネジメント なぜ、MCPは成功したのか!? 山科 直樹 (アフラック)	13:10 14:00 [PS-1] ITプロジェクト・マネジャーの成功条件 アンケート調査結果から成功するプロジェクト・マネジャー像を探る 森 敬二 (野村総合研究所) SIG	18:00 20:00 懇親会 「プロジェクトマネジメントを看とした語らいの場」では、講演者、広い層の参加者、シンポジウムチームメンバーとネットワークを広げる交流の場を提供致します。	
10:00 10:50 基調講演1 わが国製品開発の国際競争力の根源 モジュラー・デザインを中心としたプログラム展開について 広島大学 教授 日野 三十四		14:20 15:10 [IT-2] 大規模プロジェクトの要件定義フェーズの成功への効果的手法 Slerのお客様WBSへの積極的参画 武田 康利 (富士通) CFP	14:20 15:10 [EG-2] プロジェクトを定量的に判断するための指標づくり EVMSの実務への適用と秘訣 小泉 裕 (千代田化工建設)	14:20 15:10 [PA-2] ものづくりの現場と経営をつなぐプロファイリングマネジメント 食ビジネス (中食製造メーカー編) 藤澤 正則 (キュービー)	14:20 15:10 [MS-2] マトリクス体制における同時並行開発プロジェクト管理の実践 石橋 良造 (RDPI)	14:20 15:10 [NT-2] 大都市における開発型不動産の建設プロジェクトマネジメント 事例からみる第4世代の建設PMへの提案 太田 鋼治 (鹿島建設) CFP	14:20 15:10 [FI-2] 本邦決済システムの国際化へのチャレンジ 企業ニーズと解決の糸口 吉見 亨 (スイフトジャパン)	14:20 15:10 [PS-2] PMのためのコア人材育成 製薬企業における理想のPMを目指して 熊谷 文男 (中外製薬)		
11:05 11:55 基調講演2 ITプロジェクトの課題と方向 変化する環境と実戦力のあるPM育成 富士通株式会社 梅村 良		15:30 16:20 [IT-3] TPSに学ぶプロジェクトマネジメント 問題を語り合い解決するIT現場へ向けて 宮崎 友之 (インテック) 竹田 敏幸 (日本アドバンスシステム) 小原由紀夫 (FFC) SIG	15:30 16:20 [EG-3] チーム力により共働き(win-win)を確保するプロジェクトマネジメント パートナーリングという海外建設工事の新しいパラダイム 二宮 孝夫 (二宮プロジェクト顧問・技術士事務所) CFP	15:30 16:20 [PA-3] 金沢医大検査部の変革プロジェクト Polar Star 医療制度改革下でのP2M実践チャレンジ 山崎美智子 (金沢医科大学) 野島 孝之 (金沢医科大学) 大野木辰也 (金沢医科大学) 浅野進一郎 (金沢医科大学) CFP	15:30 16:20 [MS-3] 製造外部委託を成功させるPMの肝 グローバル化時代の戦略的的外部委託 竹田 清昭 (ソレクトロン)	15:30 16:20 [NT-3] エネルギーピークにどう備えるのか 石井 吉徳 (東京大学名誉教授、もったいない学会会長)	15:30 16:20 [FI-3] 確信犯へ対抗する合理的なセキュリティ対策とは 西本 逸郎 (ラック)	15:30 16:20 [PS-3] プロジェクト現場が求めるPM教育 実戦力のある真のプロを養成する! 長尾 清一 (PMコンセプト)		
		16:40 17:30 [IT-4] 上流工程におけるマイルストーンアセスメント プロジェクトマネジメントへの組織的取組み 森 悦郎 (日立ソフトウェアエンジニアリング)	16:40 17:30 [EG-4] 建設プロジェクトマネジメントの日本的展開 プロジェクト実例を通して、日本のクライアントに対する姿勢を考える ジョン・ディキソン (ボヴィス・レンドリース・ジャパン)	16:40 17:30 [PA-4] プロファイリングマネジメントにおける実践的洞察モデルの検討 國谷 正 (P2M研究会)	(18:00より懇親会会場となります。)		16:40 17:30 [NT-4] P2M標準ガイドブック改訂の概要 改訂方針と主要改訂ポイントの説明 清水 基夫 (国立大学法人名古屋工業大学大学院)	16:40 17:30 [FI-4] 金融機関におけるリスク管理の現状 事例からみたリスク管理の具体策 岩佐 智仁 (日本銀行)		

8月31日(金)

セミナー・ワークショップ全19プログラム開催
— PM基礎講座からPM実践・PM人材育成・IT関連セミナー/ワークショップ —

午前 (10:00~12:30)		午後 (13:45~16:15)		午前 (10:00~12:30)		午後 (13:45~16:15)	
A	2F 平安 (定員135名)	[A1] P2M活用に関する今後の展望 P2M実用の実態と今後の可能性 栗林 良 (日揮情報システム) P2M	[A2] PMBOK®ガイド第3版解説 PMBOK®ガイド第3版によるプロジェクトマネジメント知識体系の解説 加藤 亨 (PMAJ研修第2部会) PMP	G	4F 研修室 (定員84名)	[G1] 失敗プロジェクトを削減する要件確定前進の試み S社における要件確定研修の成果事例報告 上野 則男 (システム企画研修)	[G2] 曖昧性やあるべき論を許容するマネジメント PMの心得と行動は? 近藤 哲生 (ウインアンドウイン)
B	2F 福寿 (定員135名)	[B1] 契約をベースとしたプロジェクトマネジメント トラブルを起こさないための知識・行動 山崎 正敏 (オフィスA j ビジネス・プランニング)	[B2] 攻めの姿勢で見る内部統制 プロジェクトに活力と秩序を与える 加藤 良平 (ピーアンドアイ)	H	4F 401 (定員63名)	[H1] コンフリクト・マネジメント 多様化する職場での協力的問題解決とは? ワークショップ 鈴木 有香 (オイコス)	[H2] プロジェクトの元気はPM自身の元気から モチベーションのマネジメント 松尾谷 徹 (法政大)、宮下 圭一 (富士通アドバンスソリューションズ) 松田 浩一 (富士通)、石田 善幸 (CJ) SIG ワークショップ
C	2F 桃源 (定員135名)	[C1] IT業界のプロジェクトマネジメントは破綻するか? 先達の業界に学ぶ 拜原 正人 (クロスリンク・コンサルティング)	[C2] ITマネジャーのためのコミュニケーション術 チーム力を強化するために 田中 淳子 (グローバルナレッジネットワーク)	1日ワークショップ			
D	2F 瑞雲 (定員135名)	[D1] ITプロジェクトのリスクマネジメント 標準リスクモデルの適用と活用事例 土出 克夫 (土出技術士事務所) 澤田美樹子 (日立東日本ソリューションズ) SIG	[D2] 全体最適のマルチプロジェクトマネジメント TOC-CCPM成功の極意 岸良 裕司 (ピーイング)	K	3F 303 (定員48名)	[K] 「ふりかえり」によるITプロジェクトカイゼンワークショップ ワークショップ 天野 勝 (永和システムマネジメント)	[K]・[L]・[M] は1日ワークショップです。 スケジュールは次のとおりとします。 ■午前 10:00~12:30 ■昼食 12:30~13:30 ■午後 13:30~16:15
E	5F 小ホール (定員300名)	[E1] プロマネはなぜチームを壊すのか 本物のプロジェクトマネジャーになる 伊藤 健太郎 (アイシンク)	[E2] 構える、狙え、撃て 正しいことを正しく行うために 中嶋 秀隆 (プラネット)	L	3F 301 (定員30名)	[L] WBS活用の基本 どのように作り、使い、使えるか ワークショップ 城戸 俊二 (テム研究所)	
F	4F 407 (定員30名)	[F1] 21世紀におけるPM技術とは? 遂行技術基盤の改革・改善と技術リーダー育成法 高橋 良之 (日揮プロジェクトサービス)	[F2] プロジェクトを成功させる見積りモデルの構築と維持・改善 CoBRA法による見積りモデル構築とその活用方法について 石谷 靖 (三菱総合研究所情報技術研究センター)	M	3F 307 (定員30名)	[M] 現場力を向上させるプロジェクトファシリテーションの実践 体験して学ぶプロジェクトファシリテーション ワークショップ 松本 潤二 (松本屋)	

※両日とも申込み先着順に定員となり次第締切りとさせていただきますので、早めの申込みをお勧めいたします。

IT
トラ
ック

IT-1 プロジェクトマネジャーに必須の法務知識
8/30 13:10 あなたの業務は、新しい法務知識でどのように変わるか

ゼッタテクノロジー株式会社 経営統括本部
本部長 **梶原 定**

■ **セッション概要** 急激に変化する市場環境の中で、企業がその変化に迅速に対応するには法的な配慮が不可欠である。ソフトウェア開発業務の外注契約締結だけでも、基本知識として、下請法、知的財産権の帰属、情報セキュリティ、個人情報保護法などを考慮する必要がある。本講演では、業務遂行上、プロジェクトマネジャーが知っておくべき法務知識は何か？ 法律は仕事をどう変え、どの場面で使い、仕事にどう影響し、どう対応すればよいか、P2M手法を取り入れいかに対応するかを実践事例をベースに概要を紹介する。

■ **講演者略歴** 1972年 日本CDC (株)入社。超大型コンピューターCDC6600のSEとして販売業務に従事。1981年、パーキンエルマー・ジャパン (株) 入社。「電子ビーム描画装置」の販売に従事。1986年、(株) 山田洋行にて日本語文字フォント新規事業を立上げる。現在、ゼッタテクノロジー株式会社 経営統括本部長。

IT-2 大規模プロジェクトの要件定義フェーズの成功への効果的手法
8/30 14:20 Slerのお客様WBSへの積極的参画

富士通株式会社 自動車ビジネス本部
プロジェクト課長 **武田 康利** **CFP**

■ **セッション概要** 大規模SIプロジェクトの失敗は要件定義の進め方に多くが起因している。限られた予算と厳しい納期、そしてステークホルダー間で増大する複雑な業務要件。これらの相反要求に対して、お客様満足度を高め、リスクを低減する具体的な手法は何か？ 本講演では成功事例をもとに、「お客様作業へのSIerの積極的参画」、ステークホルダーの合意形成の手法「パネル展示会」、要件増加に備えた「要件成熟度による合理的絞込み」などの手法を、SIプロジェクトの最大の障壁である「要件定義」を克服する手法として提唱する。

■ **講演者略歴** 1993年、富士通株式会社に入社。以降、SEとしてSI開発プロジェクトに従事。97年以降はプロジェクトリーダーとして、商談～上流工程推進を中心に活動、最大4000人月程度の大規模プロジェクト経験を積み現在に至る。PMP®。

IT-3 TPSに学ぶプロジェクトマネジメント
8/30 15:30 問題を語り合い解決するIT現場へ向けて

宮崎 友之 (インテック)、竹田 敏幸 (日本アドバンストシステム)
小原 由紀夫 (FFC) **SIG**

■ **セッション概要** ITプロジェクトにおいては、技術とビジネス環境が激しく変化しているため、問題が発生することは珍しくない。問題発生自体が問題ではなく、自ら問題を認識して解決せず、やがて大問題になるようなIT現場こそが問題である。TPS (トヨタ生産方式) の生産現場では、「問題が無いことが問題」と考え、個人と組織の力を連動させて問題に対峙し、改善し続けている。IT-SIG内のTPSに学ぶPM-WGでは、IT現場で問題を語り合い、プロジェクトチームとステークホルダーで問題に対峙し、解決していく為の対策を提言する。

■ **講演者略歴** IT-SIGのTPSに学ぶPM-WGメンバー
・宮崎友之：(株) インテック 部長 ITコーディネーター
・竹田敏幸：(株) 日本アドバンストシステム 携帯システム開発/保守に従事
・小原由紀夫：WG主査 (株) FFC PMP® 米国ケイデンス社認定講師

IT-4 上流工程におけるマイルストーンアセスメント
8/30 16:40 プロジェクトマネジメントへの組織的取組み

日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社
執行役 プロジェクトマネジメント統括本部 本部長 **森 悦郎**

■ **セッション概要** 現在、お客さまから受託する「システム開発」におけるプロジェクトマネジメントの成否が、受託した会社の業績に大きな影響を与える。当社においても過去大きなプロジェクトマネジメントの失敗により赤字決算をした。そこで、過去のプロジェクトマネジメントの失敗から学び、プロジェクトマネジメントプロセスを大改革し、業績回復することができた。本セッションでは、当社における「プロジェクトマネジメントへの組織的取組み」および上流工程における「マイルストーンアセスメント」を中心に、その実際を紹介する。

■ **講演者略歴** 1975年株式会社日立製作所入社。公共・社会関係システム・エンジニア、2003年より情報・通信グループ事業推進本部長、販売計画本部長。2006年日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社入社。プロジェクトマネジメント統括本部長を経て現職。

エン
ジ
ン
建
設
・
公
共
ト
ラ
ック

EG-1 なぜ、日本が太陽光発電で世界一になれたのか
8/30 13:10 技術力とPM力が支える新エネルギーエンジニアリングの進化

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
新エネルギー技術開発部 主査 **山本 泰司**

■ **セッション概要** 日本の太陽光発電は実に30年余の歴史を有し、今や世界をリードする産業に成長した。また国内導入量も142万kWに達し、いよいよ身近な新エネルギー源として認知されている。一口に30年と言ってもその過程では多くのターニングポイントと、成功、失敗の繰り返しに直面しているわけであり、本セッションでは、現在の地位を築くまでのその様々なドラマ (物語)、そして、官民一体での技術革新とプロジェクト運営のノウハウを紹介し、企業の枠を超えて遂行される、新エネルギー分野のプロジェクトの近未来像を展望する。

■ **講演者略歴** 2004年独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構新エネルギー技術開発部に配属。太陽光発電新技術等フィールドテスト事業、風力発電フィールドテスト事業を担当し、国内の太陽光発電普及に資する。2006年3月PMS資格取得。

EG-2 プロジェクトを定量的に判断するための指標づくり
8/30 14:20 EVMSの実務への適用と秘訣

千代田化工建設株式会社 プロジェクト・コントロール部
部長 **小泉 裕**

■ **セッション概要** 最近の大規模プラントEPCプロジェクトでは投入される人的資源も大型化するなど、従来のPM手法だけではプロジェクトの状況判断が難しくなっている。プロジェクトを定量的に判断するツールの一つとしてEVMSが提唱され、その概念は数多く出版されている書籍で紹介されているが実務への適用にあたり多くの問題に直面する。本セッションでは、大規模プロジェクトでの「見える化」へのEVMS運用、プロジェクト従事者への動機付け、JV方式でのプロジェクト遂行に関するPM手法の実務面での秘訣などについて議論する。

■ **講演者略歴** 1978年早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了。同年千代田化工建設株式会社入社。国内プロジェクトのプロジェクトマネジメントを担当。海外プロジェクトに1999年より従事。大規模EPCのプロポーザル担当。2003年より現職にて社内PMツールの改善、運用を指揮。PMP®

EG-3 チーム力により共勝ち (win-win) を確保するプロジェクトマネジメント
8/30 15:30

二宮プロジェクト顧問・技術士事務所 代表 二宮 孝夫 **CFP**

■ **セッション概要** 「パートナーリング」とは、建設請負契約上の業務の共通目的を発注者側と請負者側とで認識し、信頼関係を形成し、チームとして問題を見出し、その解決策を実践していくプロジェクトマネジメント手法である。共通目的とは、「予算、工程の厳守とコスト削減努力」、「適正利潤」、「安全、地域社会への貢献」、「参画者の緊密なコミュニケーションによる協働精神と相互信頼の醸成」、「訴訟の抑制、防止」等である。パートナーリング参画者は、Honest、Trust、Respect、Commitment、Fair、等の共通土壌を持たねばならない。

■ **講演者略歴** 株式会社熊谷組入社後、東京での勤務を経て1976年から「香港地下鉄工事」に3期勤務 (作業所長)。本社事業部課長を経て1987～1994年「バンコク高速度道路会社社長 (BOT)」、本社海外営業総括部長、執行役員海外本部長。2006年4月より「二宮プロジェクト顧問・技術士事務所代表」。

EG-4 建設プロジェクトマネジメントの日本的展開
8/30 16:40 プロジェクト実例を通して、日本のクライアントに対する姿勢を考える

ボヴィス・レンドリース・ジャパン株式会社
代表取締役 CEO **ジョン・ディキソン**

■ **セッション概要** 建設プロジェクト実施時のPMアプローチは徐々に日本でも普及しはじめた。海外のクライアントが定常的に採用しているPMアプローチを、日本のクライアントも最近になって取り入れているが、多くの場合、PMアプローチの基本的な目的と手法が十分理解されずに、公正で説明責任のある手法によるプロジェクト遂行と、建設業界の様々な関係者間の長年に亘る良好な関係とが、相反する結果を招く傾向にある。この状況を最近のプロジェクト例で示し、日本でPMをより効果的に適用する時のバリアを打破していく方法を提起する。

■ **講演者略歴** 1953年ニュージーランド生まれ。(株) 黒川紀章建築・都市設計事務所、(株) 日建設を経て、ボヴィス・レンドリース・ジャパン (株) 代表取締役 CEOに就任し、現在に至る。国土交通大学校非常勤講師等を務める。日本におけるPM・CMの普及に貢献している。

P
2
M
ト
ラ
ック

PA-1 旭硝子における技術・技能強化伝承活動の全社展開について
8/30 13:10 P2Mの視点からの振り返り

旭硝子株式会社 モノづくり技術強化室 AGCモノづくり研修センター
所長 **林 英男**

■ **セッション概要** 「モノづくりへのこだわりの現場力の強化」という経営課題に対し、P2Mの手法を用いて「技術・技能の強化、伝承」活動としてAGCグループ全社に展開した。短期間で継続的・効果的な活動を展開し、第1段階での所定の成果を得た。装置産業から組み立て産業まで多岐に渡る分野を持ち、またグローバルに展開する企業として、これまでのプロセスを振り返り、整理し、今後の展開のための課題を含めて、実践事例として説明する。

■ **講演者略歴** 1981年東京大学工学系研究科産業機械工学専攻修士課程修了。同年旭硝子株式会社入社。硝子製造設備の保全業務での工場経験、同エンジニアリング業務を経験。現在は、モノづくり技術強化室AGCモノづくり研修センター所長として、全社の技術・技能強化伝承活動を推進中。PMAJ会員。

PA-2 ものづくりの現場と経営をつなぐプロファイリングマネジメント
8/30 14:20 食ビジネス (中食製造メーカー編)

キューピー株式会社 エンジニアリング部
次長 **藤澤 正則**

■ **セッション概要** P2M研究会では、2006年4月から12月まで、プロファイリングマネジメントについて、研究を行った。IT、エンジニアリング系では、発展してきているP2Mのツールを、今回、ものづくりの現場と経営をつなぐプロファイリングマネジメントとしてありのままの姿、あるべき姿、実施課題の抽出、実現方法などをどのように考え、進めていくかを食ビジネス (中食製造メーカー編) を事例として、取り上げる。

■ **講演者略歴** 1985年キューピー (株) 入社。生産、エンジニアリングに従事後、小売物流関連の組合に出向し、原料から販売までの仕組みの構築のPJなど携わり、現在、グループ会社や顧客への事業改善、工場計画支援などの業務に従事。PMAJ (PMR)、日本冷凍空調学会会員、日本食品工学会会員

PA-3 金沢医大検査部の変革プロジェクト Polar Star
8/30 15:30 医療制度改革下でのP2M実践チャレンジ

金沢医科大学 病院検査部副技師長 山崎 美智子、病態診断医学 教授 野島 孝之
経理管財部長 **大野木 辰也、理事長室長 浅野 進一郎** **CFP**

■ **セッション概要** 日本は国際比較では安価で質の高い医療を提供してきたが、世界に例を見ない急速な少子高齢化が進む中、政府と国民からは、より安く、より安全で、より質の高い医療サービスが求められてきている。2004年秋、経営側からのアウトソーシング化検討要請を機に、金沢医大検査部ではP2Mによる変革プロジェクト Polar Star を開始した。変化のスピードに対応できるプロフェッショナル集団を目指し、コスト削減と人材育成と組織改革に取り組んでいる。病院および地域社会に良い循環を生み出す組織へと成長していきたい。

■ **講演者略歴** 山崎美智子：臨床検査技師、PMS、医療情報技師。2004年より検査部プロジェクトオフィスマネジャー。医療制度改革下でのP2Mの有効性を関連学会やセミナーでアピール中。野島孝之：医師、検査部・病理部長兼務。大野木辰也：経理・人事・経営分析業務に従事し、現在は経理・管財部門担当。浅野進一郎：管理運営担当。

PA-4 プロファイリングマネジメントにおける実践的洞察力モデルの検討
8/30 16:40

P2M研究会 國谷 正

■ **セッション概要** P2Mにおける中核概念としての「プログラム統合マネジメント」を実施するうえで重要な位置づけにあるプロファイリングマネジメントについて、「ありのままの姿」から「あるべき姿」を導くための方法として洞察力と俯瞰力を用いる方法がある。これらを説明するものとして俯瞰力モデルと洞察力モデルがあるが、ここでは洞察力モデルを実際のビジネスに使用するための実践的モデルとしてアレンジし、想いのブレークスルーと複数の想いの組合せ及び連鎖から「あるべき姿」そして「実践する姿」までを導く試みを行なった。

■ **講演者略歴** 1990年千代田化工建設 (株) 入社、食品・医薬品・化学プラントのプロジェクト管理及びエンジニアリングを遂行。2002年富士電機 (株) 入社、環境プラントのエンジニアリング及び新事業の事業化プロジェクト、環境装置の開発プロジェクト等に携わる。

MS-1 国際宇宙ステーションにおけるソフトウェアの安全・開発保証管理
8/30 13:10

宇宙航空研究開発機構 PM 長谷川 義幸
主任開発員 酒井 純一、主任開発員 上杉 正人 CFP

■セッション概要 国際宇宙ステーション開発は米国、ロシア等世界15カ国が機器を分担製作し、宇宙空間で組立てる国際協力プロジェクトである。日本はこのプロジェクトに独自の実験棟「きぼう」を開発し参加している。国際宇宙ステーションでは、誤動作や誤操作が生命の安全を脅かす恐れがあるために、搭載されるソフトウェアの安全・開発保証管理が重要となっている。本報告では、「きぼう」の開発においてNASAから学んだ有人宇宙船のソフトウェア安全設計思想、その開発管理手法および独立検証活動について説明する。

■講演者略歴 長谷川 義幸：1976年宇宙開発事業団入社。1995年より宇宙ステーション日本実験棟開発に従事。2003年より運用プロジェクトに参加。酒井 純一：1990年入社。日本実験棟計算機制御システム開発に従事。上杉 正人：1987年入社。日本実験棟通信制御システム開発に従事。

MS-2 マトリクス体制における同時並行開発プロジェクト管理の実践
8/30 14:20

株式会社 RDPI
代表取締役 石橋 良造

■セッション概要 製造業における製品開発組織はマトリクス体制を採用しているところが多い。しかしながら、マトリクス体制ではプロジェクトと組織とが密接に絡み合っており、単純なプロジェクト管理手法では進捗管理すら機能しないことがある。本講演では、マトリクスによるプロジェクト管理の基本、および、マトリクス体制におけるマトリクスとその利用方法を紹介する。ねらいは、マトリクス体制のもとで複数プロジェクトを適正にコントロールするためのノウハウを、実例を交えながらお伝えすることである。

■講演者略歴 日本ヒューレット・パッカートにて半導体計測システムの開発に従事した後、社内の製品開発改革プロジェクトに参加。その後、製品開発マネジメントに対するコンサルタントとなる。アジレント・テクノロジーに移籍の後、現在は株式会社RDPIを設立しコンサルティングを実施している。

MS-3 製造外部委託を成功させるPMの肝
8/30 15:30

ソレクトロン株式会社
代表取締役社長 竹田 清昭

■セッション概要 製造に限らず企業における非コア事業領域の外部委託は、世界規模の競争及び市場参入における重要な事業戦略と認識され、欧米においては積極的に展開されている。そこには、受託元と受託先のPMが密接に連携し、製品（サービス）を最適なサプライ・チェーンによって提供している。本セッションでは、製造専門として競争優位性を持つEMS（電子機器製造受託サービス）の標準化されたPMプロセスを概説し、製造原価低減のみならずROIの改善による企業価値をも高める戦略的外部委託を指揮するPMの肝を紹介する。

■講演者略歴 82年横河ヒューレット・パッカート入社、電子部品事業部セールス・マネジャーを経て99年Agilent Technologies日本法人の半導体部品本部カントリー・マネジャー（執行役員本部長）兼アジア太平洋地域特約店ビジネス事業部長、2004年より現職。



NT-1 事業再生にみる組織改革の要諦
8/30 13:10

「産業再生機構」の経験から
ポストンコンサルティンググループ
ヴァイス・プレジデント、ディレクター 秋池 玲子

■セッション概要 金融不安の渦中にあった2003年4月「産業と金融の一体再生」を掲げて発足し、本年3月解散した「産業再生機構」は典型的なプロジェクトであり、行政の新しい試みであった。また、事業再生はどの企業にも起こることではないが、そこに見られる組織改革プロジェクトの手法は優良企業にも応用できるものである。産業再生機構そのもの、またそこで手がけた案件の実例を用いながら、プロジェクトマネジメント、及び組織改革プロジェクトの原則や要諦を紹介する。

■講演者略歴 早稲田大学理工学部修士課程卒業。マサチューセッツ工科大学経営学大学院修了。キリンビール、マッキンゼー・アンド・カンパニー、産業再生機構を経て現在に至る。製造業やハイテク分野を中心に成長戦略、組織改革、研究開発マネジメント等のプロジェクトを数多く経験。

NT-2 大都市における開発型不動産の建設プロジェクトマネジメント
8/30 14:20

事例からみる第4世代の建設PMへの提案
鹿島建設(株) 東京国際空港原動機センター南棟工事副所長
日本工業大学MOT大学院客員教授 太田 綱治 CFP

■セッション概要 大都市における最近の不動産と建設を融合した開発型不動産証券化案件は、日本型建設PMの新しい方法として注目され、商業ビルやオフィスビルでは、集客力を考えた斬新なデザインと空間に伴い、高度でトータルな技術及びPMが要求されるようになった。本件は、都心の商業店舗ビル事例を取り挙げ、複雑な権利調整と価値創出の最大化が要求されるプロジェクトにおけるPM手法の取り組みを紹介すると同時に、「PFI」や海外型EPC工事などを含む第4世代の新しい建設PMの可能性を提案する。

■講演者略歴 1979年芝工大大学院卒、同年鹿島建設入社、1989年ロンドン大学院BEM卒、16年間シンガポール、英国の海外工事後、現在、不動産投資型、国内EPC工事など第4世代の建設PMに従事。2006年太平洋QS国際会議日本代表、国際P2M学会会員、工学博士、一級建築士、一級建築施工管理士。

NT-3 エネルギーピークにどう備えるのか
8/30 15:30

工学博士 東京大学名誉教授
もったいない学会会長 石井 吉徳

■セッション概要 地球は有限、自然にも限りがある。これが私の思考の原点、また考える基本方針でもある。これは地球物理学者である私には当然だが、一般的にはなかなか理解されない。21世紀の人類の課題は「エネルギー資源と地球環境」である。地球温暖化と同時に石油のピークがはっきりしてきた。世界はこのリスクへの準備を進めているが、日本は大学においてさえもエネルギーリスクの存在を否定している。資源争奪戦で石炭・ウランもピークを迎えるエネルギーピークに日本は基本戦略を持って備えなければならない。

■講演者略歴 1955年東京大学理学部物理学科（地球物理）卒業。石油開発産業を経て、1971年東京大学工学部資源開発工学科助教授、1978年教授。1993年退官し名誉教授。国立環境研究所副所長を経て1996年から1998年まで所長。2000年より2006年富山国際大学教授。

NT-4 P2M標準ガイドブック改訂の概要
8/30 16:40

改訂方針と主要改訂ポイントの説明
国立大学法人名古屋工業大学大学院（社会工学専攻）
教授 清水 基夫

■セッション概要 日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)の基軸となっているP2M標準ガイドブックは、日本発のPM標準として今日までかなりの普及をみせ、世界的にも知られる存在になっている。しかし、発刊から5年以上を経過し、世の中の進歩や環境の変化に合わせて見直しが必要な部分があること、また資格者、関係者等からさらなる改善に向けて強い要望があることを踏まえ、PMAJ内にP2M改訂委員会を設置し改訂作業を行ってきた。その結果がほぼまとまったので、このシンポジウムの機会をとらえ、その改訂の概要を公表するものである。

■講演者略歴 NEC宇宙部門にてレーザ・ミリ波開発部長、宇宙開発事業部長代理、宇宙ステーション・システム本部長等として光ファイバ通信、衛星間レーザ通信システム、宇宙ステーション通信制御系開発など各種プログラムを担当。平成13年より名古屋工業大学教授、副学長（平成16・17年度）。工学博士

FI-1 ユーザ企業から見たITプロジェクトマネジメント
8/30 13:10

なぜ、MCPは成功したのか!?
アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）
システム開発サポート部プロセス管理G 課長 山科 直樹

■セッション概要 ITプロジェクトマネジメントについては、受注側視点での研究や論文が数多く見受けられる。しかし、プロジェクトの成否を左右する要素は顧客である発注者にも多分に存在している。「ユーザの協力が得られない」「レビューに時間がかかる」などが端的な例である。副題のMCPとは、昨年実施したメインフレーム統合プロジェクトの略称である。このプロジェクトの成功要因を例に、ユーザ企業から見たITプロジェクトマネジメントの在り方を提唱する。

■講演者略歴 1991年国内生保系システム開発会社に入社。1998年アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）に入社。主に個人保険の契約管理システムを担当。昨年、メインフレーム統合プロジェクトのPMに従事し成功裡に完了させた。

FI-2 本邦決済システムの国際化へのチャレンジ
8/30 14:20

企業ニーズと解決の糸口
スイフトジャパン コマーシャルディビジョン
バイスプレジデント 吉見 亨

■セッション概要 スイフトは、ベルギーに本部をおく国際銀行間通信協会の略称であり、30年超にわたり通信手順の標準化、世界的なネットワークの整備により、決済を通じた金融業務の効率化に貢献している。企業のグローバル化が進む一方、本邦の決済システムは独自の体系を有しており問題点が指摘されている。グローバルに財務資金管理を志向する多国籍企業の支援を通じた企業ニーズに応えるIT・PMの糸口について紹介したい。また、本邦決済システムとの協業を模索し得られた教訓などをPMの観点から共有し、今後の方向性を探る。

■講演者略歴 1981年三菱銀行（当時）入社、東京・ロンドンなど内外で決済事務、システムプロジェクトを経験。1998年ポレロインターナショナル（ロンドン）にて貿易電子化の推進。2001年よりスイフトジャパンにて、内外の主要銀行との取引や企業との取引を担当。

FI-3 確信犯へ対抗する合理的なセキュリティ対策とは
8/30 15:30

株式会社ラック
取締役執行役員 研究開発本部長 西本 逸郎

■セッション概要 昨今のセキュリティ対策への要求は、法や基準等へ対応するためのものが多く、偶発的に発生する事故、愉快犯や模倣犯レベルの対策には有効であるが、組織力を持った確信犯への対策は視野に入れられないのが実情である。最近のトレンドからその背景を説明し、金融機関として本来なすべきセキュリティ対策の考え方を、紐解いてみる。

■講演者略歴 昭和61年 株式会社ラック入社 情報セキュリティ対策をテーマに講演多数 株式会社ラック取締役執行役員研究開発本部長、特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会 理事 政策部会長、セキュリティ評価WGリーダ/ST作成WGリーダ（歴任）、平成16年4月～熊本大学大学院自然科学研究科在籍

FI-4 金融機関におけるリスク管理の現状
8/30 16:40

事例からみたリスク管理の具体策
日本銀行 金融機構局
企画役 岩佐 智仁

■セッション概要 金融機関経営にとって、コンピュータシステムの活用は不可欠なものとなっており、開発・運用に当たっては、様々なリスク軽減策を適切に施すことが肝要である。リスク対策は、技術動向の変化や新たな金融犯罪の出現等にあわせて、随時見直す必要がある。しかし、経営層の重要性認識が不十分な結果、プロジェクト管理体制が全社横断的なものとなっていない事例などが見られる。日本銀行が2007年3月に公表した「事例からみたコンピュータ・システム・リスク管理の具体策」をもとに、課題と対応のあり方を説明する。

■講演者略歴 長年、日本銀行のIT部署で、システム企画・開発に従事。ホスト系・オープン系における、アプリケーション開発、インフラ構築等を担当。数年前から、現部署において、金融機関におけるシステム・リスク管理の調査・調査等に従事。FISCの「安全対策基準改訂検討部会」委員。

1日目 セッション概要

PM人材育成トラック

PS - 1 ITプロジェクト・マネジャーの成功条件
8/30 13:10 アンケート調査結果から成功するプロジェクト・マネジャー像を探る

株式会社 野村総合研究所 証券システムサービス基盤統括部 上級専門職 森 敬二 **SIG**

■ **セッション概要** 米国のコンサルタントが実施した調査結果によると、プロジェクト・マネジャーの成功する条件をまとめたところ、ヒューマン・スキルが82%であった。しかし、日本型組織は技術重視であり、成功条件はこれと異なるのではないかと、という疑問を持った。そこで、当WGでは「組織のマネジメント風土の比較」、「日本のプロジェクト・マネジャーのキャリアパス」等の議論結果を踏まえ、業種別にアンケート調査とヒアリングを実施し、特にITプロジェクト・マネジャーの成功条件を考察した。今回、その中間結果の報告を行う。

■ **講演者略歴** 1989年、株式会社 野村総合研究所入社。金融法人のITシステム開発業務に従事。2004年に品質監理部門にて社内プロジェクトの監理業務に従事。PMP®取得。2007年より、証券会社のITシステム開発業務のPMOを担当し、現在に至る。

PS - 3 プロジェクト現場が求めるPM教育
8/30 15:30 実戦力のある真のプロを養成する！

株式会社 PMコンセプト 代表取締役社長 長尾 清一

■ **セッション概要** 失敗プロジェクトの低減には、状況変化に応じてPMスキルを安定的に発揮できる「人財（真のプロ）」が不可欠になる。しかし多くの企業では、そのような「人財」が不足している。また即効性のあるプロの養成にも行き詰まっている。では、実戦の場で勝負できるプロを短期間で育成するためには、どうしたらよいか。PMに必須な実践スキルの重要性を認識させ、そのスキルを効率よく習得させ、習得したスキルを現場に適用、習慣化させ、行動の変化を促す方法とポイントを具体的な例を挙げながら解説する。

■ **講演者略歴** UCバークレー校ビジネススクール大学院卒 MBA取得。15年間で大規模プロジェクトを指揮監督。1993年よりPM教育専門の米国企業アジア・パシフィック地区総責任者として7ヶ国でPM研修を実施。1997年（株）PMコンセプト設立。著書「先制型プロジェクト・マネジメント」（ダイヤモンド社）。

PS - 2 PMのためのコア人材育成
8/30 14:20 製薬企業における理想のPMを目指して

中外製薬株式会社 人財開発部 兼 SMU推進部 部長 熊谷 文男

■ **セッション概要** 2002年10月新たな形態による企業提携を目指して船出した「新生中外製薬」は、この5年間で急成長（株価3倍、時価総額1兆6千億円）を遂げた。この間の「統合」から「変革」への歩みについて、PMの切り口から紹介し、中外製薬にとって理想的なPMのあり方について考察する。そして、理想の実現に向けた具体的な取り組み、すなわち試行錯誤を繰り返してきた泥臭い生の姿を、人材育成の観点から考察する。さらに、日ごろ実践している人材育成及び教育・研修の評価法や裏技も紹介する。

■ **講演者略歴** 1975年中外製薬入社。新薬の臨床開発に従事。1988年米国関連会社（ニューヨーク、シカゴ）に転出。1993年帰国。PM体制導入・確立を担当。自らもプロジェクトリーダーに。2003年人財開発部を兼務。研究開発部門、PM・ライフサイクルマネジメント関連組織の人材育成及び教育・研修を担当。

PS - 4 PBL方式によるPM教育
8/30 16:40 大学院におけるPMO活動をテーマにしたプロジェクトマネジメント教育

公立大学法人 産業技術大学院大学 産業技術研究科 教授 酒森 潔 **CFP**

■ **セッション概要** 産業技術大学院大学は2006年に東京都が開設した社会人のための専門職大学院である。本学では学生自らテーマを決めて目標達成をめざすPBL (Project Based Learning) 方式で情報アーキテクトの教育を開始した。PBLのうちの一つがプロジェクトマネジメント教育を目的としたものであり、具体的なプロジェクトテーマとしてPMO (Program Management Office) の立上を行っている。本講演では本学のPBLに対するPMO活動を通じたプロジェクトマネジメント教育の実践事例を紹介し、その効果や課題について解説する。

■ **講演者略歴** 1978年日本アイ・ビー・エム入社。社内情報システム部門にて、システムの企画、開発、保守、運用管理を担当。その後、社外の情報システム構築プロジェクトのプロジェクトマネジャーを歴任。2006年より、新設された産業技術大学院大学においてプロジェクトマネジメントを指導。

展示ブース概要 8月30日(木) 9:15~17:45 2F 桃源 ☕ **ドリンクサービス 昼休み・休憩時間に提供します。**

出展企業	出展概要
日本プロジェクトマネジメント協会	PMAJが実施する講座、セミナー、出版物等のご案内、および部会、SIG、研究会等の活動のご紹介とご参加案内。
株式会社ヒューマンデザインオーソリティ	プロジェクトマネジメントから学ぶPWAトレーニングプログラム・若手向けPMアセスメント-PWA検定のご紹介。
アイシंक株式会社	PM研修のご紹介やリーダーシップ育成シミュレータ「バーチャル・リーダー」を体験して頂けます。
公立大学 産業技術大学院大学	①大学院で取り組んでいるPM教育 (PBLを中心として) ②本学の紹介 ③本学オープンインスティテュート事業の紹介
プラネット株式会社	PMグローバルスタンダードの手法をご紹介します。公開コースはわが国最多の実績です。
株式会社口ゴ	開発現場の混乱を収束させエンジニアを元気にする処方箋、クリティカルチェーン。
株式会社ビーイング	クリティカルチェーンを用いたPMシステム『BeingManagement-CCPM』や成功事例、セミナー等をご紹介します。
株式会社ユーフィット	MS Projectを活用したPMの「見える化」のご相談。
日揮情報システム株式会社	J-SYS提供のPJ管理システム、エンジ製造業向け「EPMソリューション」・IT業界向け「Smart-PMO」
ITエンジニアリング株式会社	「PRIMAVERA」によるEPM構築の実例・機能紹介やPMに関する教育プログラムのご紹介等を行います。
株式会社ニルソフトウェア	プロジェクト管理ツール xDTSおよびWBS作成ツール WBS Padを用いたプロジェクトマネジメントの「見える化」のデモ。

2日目 セッション概要

2日目 セッション概要

A - 1 P2M活用に関する今後の展望
8/31 10:00 P2M実用の実態と今後の可能性

日揮情報システム株式会社 ソリューション本部 プロフェッショナルサービス部長 栗林 良 **P2M**

■ **セミナーの狙い** 待たれていた「P2Mガイドブック」が刷新されます。改訂のハイライトは何か。2007年度の目玉、P2Mの改訂の魅力に迫る。P2Mに知見の深いパワーユーザーは、実践利用をどのように行っているのか。P2Mの強みはどこにあるのか。今回の改訂に際しての執筆委員と実践家をお迎えして、その魅力に迫る。

■ **セミナーコンテンツ**
P2M改訂の狙いとポイント：
Ⅰ. 現行版との違い、改訂版の魅力。
Ⅱ. P2Mの理論と実践をどのように結びつけるか。
Ⅲ. 応用活用事例

■ **受講をお奨めする方** ・これからP2Mを学ぼうとする方々。・PM関連資格の保有者でさらに上級の資格を目指している方。・プロジェクトマネジメントに興味をお持ちの方。・経営戦略、経営品質を考えておられる方。・PFI、ODA、長期的研究、環境問題などに関わっておられる方。・新しい人材育成や研修制度などを検討している方。・失敗しないプロジェクトマネジメントの実践を考えておられる方。・提案・企画力、営業力の強化・改革を検討しておられる方。

■ **講師略歴** コーディネータ 栗林 良：1981年総合建設業 国内/海外プロジェクトマネジャー、1999年（株）TMSギャラクシー ISO事業部長、（株）スタット・サービス コンストラクション事業部、2000年日揮情報システム（株）勤務、SIにおけるプロジェクトマネジャー経験多数、現在に至る。

パネリスト 大熊 敏正：協和建設工業（株）代表取締役社長 他数名

B - 1 契約をベースとしたプロジェクトマネジメント
8/31 10:00 トラブルを起こさないための知識・行動

オフィスAj ビジネス・プランニング (有)ピーエム情報技術研究所 コンサルタント 山崎 正敏

■ **セミナーの狙い** 情報システム開発プロジェクトにおいて、ユーザ企業（発注者）と情報システム開発会社（委託先）との間で契約に関するトラブルが増大している。暗黙の了解による信頼関係だけでは、高度化した技術を伴う複雑化したシステム開発を対象としたプロジェクト運営に対応できなくなっている。契約・法律上のトラブルは、発注者、委託先、双方に何ら利益をもたらすことはない。このようなトラブルを起こさない堅実かつ原理・原則に忠実なプロジェクト運営を実施するために、プロジェクトマネジャーおよびメンバーが持つべき契約・法律の知識、および取るべき行動について、プロジェクトマネジメント実践者の立場から解説を行う。

■ **セミナーコンテンツ** ①契約・法律をめぐるトラブル ②プロジェクトを取り巻く契約関係 ③契約の基本 ④プロジェクトの進行に応じた対応 ⑤契約書に基づいた遂行体制

■ **受講をお奨めする方** プロジェクトに関する契約・法律知識をつけたい、①ユーザ企業で情報システムの開発を担当している方 ②情報システム開発会社で開発プロジェクトに参画されている方

■ **講師略歴** 経営、プロジェクトマネジメントのコンサルティング・研修を中心に活動中。国内外のプラント建設、情報システム開発、経営改革プロジェクトのマネジメントを経験。日本プロジェクトマネジメント協会理事・PMJ関西代表 PMP®、中小企業診断士、ITコーディネータ（株）神戸製鋼所、コベルシステム（株）/大阪大学工学部

■ **講師略歴** 経営、プロジェクトマネジメントのコンサルティング・研修を中心に活動中。国内外のプラント建設、情報システム開発、経営改革プロジェクトのマネジメントを経験。日本プロジェクトマネジメント協会理事・PMJ関西代表 PMP®、中小企業診断士、ITコーディネータ（株）神戸製鋼所、コベルシステム（株）/大阪大学工学部

A - 2 PMBOK®ガイド第3版解説
8/31 13:45 PMBOK®ガイド第3版によるプロジェクトマネジメント知識体系の解説

PMAJ研修第2部会 加藤 亨 **PMP**

■ **セミナーの狙い** 米国PMI®の発行するPMBOK®ガイド第3版は、「プロジェクトマネジメントの知識体系のうち、良い実務慣行と一般的に認められている部分を特定する」ことを目的としている。PMBOK®をベースにしたPMP®資格認定者も全世界で約22万人となり（2006年12月）、PMBOK®は、業界を問わないプロジェクトマネジメントのデファクトスタンダードとして、広く認知されている。本講座では、PMBOK®ガイド第3版を概説し、受講者のプロジェクトマネジメントの実践に役立てていただくことを目的としている。

■ **セミナーコンテンツ** PMBOK®フレームワーク、9つの知識エリア、44のプロセスおよび、PMP®試験仕様の解説

■ **受講をお奨めする方** ①PMP®資格受験を目指す方 ②PMBOK®ガイド第3版の内容を知りたい方 ③ITC、P2M資格取得者の方でPMBOK®の概要を知りたい方など

■ **講師略歴** ITエンジニアリング株式会社 C-IT事業部 事業部長：1953年生まれ、1978年 千代田化工建設（株）入社後、同社の情報化プロジェクト（電子協働プロジェクトなど）を担当。1999年 同社の情報子会社 ITエンジニアリング（株）設立とともに異動。ネットワーク事業部長、EPM事業部長を歴任。現在、ビジネスプロセスアウトソーシング事業を担当するC-IT事業部の事業部長。PMAJ研修第2部会会員、PMP®、PMS、情報処理技術者AN、AE、SD等

B - 2 攻めの姿勢で見る内部統制
8/31 13:45 プロジェクトに活力と秩序を与える

株式会社ピーアンドアイ 企画営業本部セミナー事業部 加藤 良平

■ **セミナーの狙い** 会社法、金融商品取引法（日本版SOX法）、あるいは米国で活動する企業にとっては米国の企業改革法（SOX法）などで、いわゆる内部統制がさまざまな形で要求されている。法的な基準を満たすことは当然必要だが、一方で先進的な企業は、内部統制により企業全体や各プロジェクトを強化する方向で努力を重ねている。ここでは特にプロジェクトマネジメントの観点を中心に、メンバーの意欲や能力を引き出し、組織の知的インフラを高め、企業の理念や価値を長期的に高めるためのヒントを考える。

■ **セミナーコンテンツ**
・内部統制をめぐる社会的ニーズや法的枠組み
・日本版SOX法における内部統制の基本的な考え方や対処指針
・メンバーのナレッジ向上を核とした組織論的プロジェクトマネジメント
・長期視点で健全な企業価値を三位一体フレームで考える

■ **受講をお奨めする方**
・内部統制を企業全体の中で戦略的に推進していくべき方
・個々のプロジェクトにおいて、内部統制を攻めの姿勢で活用したい方

■ **講師略歴** 1958年生まれ。専攻は数理工学で、『神経回路網理論や遺伝子学を応用した組織論』、『社会人のための数のセンス講座』、『Excelベースでの統計解析やナレッジ構築』など手がける。著書に『ソニーのDNAを受けついで11人』（集英社）、『遺伝子工学が日本の経営を変える！』（講談社+α新書）、『数字のホント？ウソ！』（KKベストセラーズ・ベスト新書）、『Excelで始めるナレッジ・マネジメント』（日本評論社）、『多数決とジャンケン』（講談社）など

C-1 IT業界のプロジェクトマネジメントは破綻するか?

8/31 10:00 先達の業界に学ぶ

株式会社クロスリンク・コンサルティング
代表取締役社長 拜原 正人

■セミナーの狙い 近年のITプロジェクトの成功率は30%強に過ぎない。しかも、企業経営/ビジネスの変革に伴うITプロジェクトの短期導入、ITプロジェクト環境の複雑・多様化、プロジェクトマネジャーの人材不足などから、今後も予断を許さない状況にある。この危機感の下で、プロジェクトの成功率が70~80%と言われる先達の業界に学ぶことは、歴史の浅いIT業界のプロジェクトマネジメントの現在の相対的位置確認と共に、他業界にないIT業界固有の問題の気付きにもなる。本セミナーでは、他業界のプロジェクトマネジメントから得た知見を加味して、IT業界のプロジェクトマネジメントの現状と今後の課題/方向について俯瞰を試みる。

■セミナーコンテンツ ①ITプロジェクトの危機事例に見るIT業界の課題 ②先達の業界に見る課題克服の叢智 ③先達の業界にないIT業界固有の問題の解明とプロジェクトマネジメントへの反映

■受講をお奨めする方 ①企業/組織変革の責任者で、PMを変革のための重要なツールと考えてる方 ②オーナー、コントラクター(Sier)などのPM統括責任者/プロジェクトマネジャーでPMに熱い思いあるいは問題意識を持つる方

■講師略歴 1970年日本電信電話公社研究所へ入社。研究所・大手企業共同開発大規模オンラインシステム・プロジェクトDIPSの当初から撤退までを担当。100を超える大規模ITプロジェクトのマネジメントに携る。97年、NTTソフトウェア取締役に就任。2003年、50を超える危機プロジェクト再建ノウハウを活かして、プロジェクト危機救済を請負うクロスリンク・コンサルティング社を設立、代表取締役に就任。現在、プロジェクト危機の回避を図るリスクマネジメント、高度PM人材の育成に業容拡大。PM学会、IAP2M学会、PMAJ会員

C-2 ITマネジャーのためのコミュニケーション術

8/31 13:45 チーム力を強化するために

グローバルナレッジネットワーク
人材教育コンサルタント 田中 淳子

■セミナーの狙い プロジェクトチームの成果は、マネジャーがメンバーとどうコミュニケーションを図るかに大きく影響を受ける。メンバーのやる気を刺激する一言、手戻りを発生させない上手な指示、成長につながるフィードバックの与え方など、コミュニケーションでカバーできる事柄は多い。人は、往々にして相手が変わってくればよいのに、と誤ってしまいがちだが、他人を変えるのは難しい。それより、自分のコミュニケーションのとり方を変えることでメンバーとの関係やチームの力などを変えていくほうがよい。性格などに依存すると考えられがちなコミュニケーションには、誰でも学習できる「スキルやテクニック」がある。このセミナーでは、マネジャーがメンバーとどうコミュニケーションをとるべきか、具体的なスキルやテクニックとして学ぶ。

■セミナーコンテンツ ①ミスコミュニケーションの例 ②仕事の指示の出し方 ③成果へのフィードバック方法(褒め方、改善の指摘など) ④メンバーを動機づけるコツ ⑤チームのコミュニケーションを活性化するための提案

■受講をお奨めする方 コミュニケーション・スキルを棚卸し、より向上したいマネジャーやリーダー

■講師略歴 1986年上智大学文学部教育学科卒業、日本デジタルイクイップメントにてITとヒューマンスキルの教育事業に従事。1996年グローバルナレッジネットワーク入社、ヒューマンスキル分野の人材育成に携わる。著書『速効! SEのためのコミュニケーション実践塾』『速効! SEのための部下と後輩を育てる20のテクニック』(日経BP社)、『はじめての後輩指導-知っておきたい育て方30のルール』(日本経団連出版)。2007年1月から「日経コンピュータ」にて「ITマネジャが知っておくべきコミュニケーション術AtoZ」連載中。

D-1 ITプロジェクトのリスクマネジメント

8/31 10:00 標準リスクモデルの適用と活用事例

土出技術士事務所 土出 克夫
株式会社日立東日本ソリューションズ 澤田 美樹子 SIG

■セミナーの狙い 本セミナーはSIGで作成した「ITプロジェクト実践リスクマネジメント・ガイドブック」を下に、特にSIプロジェクトにおけるリスクのワナとリスク事象例を整理・紹介するとともに、いくつかのリスク事象をケーススタディの形で標準リスクモデルに適用し、その活用方法、有効性を解説することを狙いとする。

■セミナーコンテンツ ①リスクと問題、ITプロジェクトの特性からみたリスク及びリスクマネジメントの捉えかた ②SIプロジェクトにおける商談開始からプロジェクト遂行に見られるリスク識別のポイント(大項目8と中項目50)、各項目に関わるリスクのワナとリスク事象例 ③スミス&メリットの「標準リスクモデル」の概説、リスク事象例における活用方法と有効性のケースによる考察他。

■受講をお奨めする方
・リスクマネジメントに悩んでおられるプロジェクトマネジャー
・SIビジネスを推進・監理されているマネジャー
・PMOの立場でプロジェクトをサポートされているスタッフ

■講師略歴 土出克夫: 大手SI'erにてフィールドSE、共通技術管理、ラインマネジャー、ISO9001QMSの構築・推進の後、プロジェクト監査・指導、PM研修教材開発・同講師等プロジェクトマネジャー育成に従事。2006/7に独立、引き続きPM関連研修講師等。PMP®、PMS。澤田美樹子: 大手製薬会社システム開発プロジェクトなどのプロジェクトマネージャを経て、2001年から様々な分野のリスク分析コンサルティングに従事。PMP®。

D-2 全体最適のマルチプロジェクトマネジメント

8/31 13:45 TOC-CCPM成功の極意

株式会社ビーイング 取締役 岸良 裕司

■セミナーの狙い ますます複雑化する現代のプロジェクト現場。経営現場はマルチプロジェクトが現実。この現実に対応するTOCかつパワフルな全体最適のソリューションを提供しているTOCクリティカルチェーン(CCPM)について、マルチプロジェクトマネジメントに特化し、そのインプレメンテーションの成功の極意について議論する。

■セミナーコンテンツ 良かれと思って導入した手法がなぜかあって現場を苦しめるのか? なぜ、マルチプロジェクトが混乱するのか? 複雑な現状をいかにシンプルに取り扱うか? なぜCCPMがマルチプロジェクトにおいて劇的な効果があるのか? 従来とのPMとの違いは何か? そして、従来のPMとの相乗効果を作るインプレメンテーションの手法を紹介しながら、精神論に偏りがちな人的マネジメントに実践的かつわかりやすいロジカルなマルチプロジェクトマネジメント手法を紹介する。

■受講をお奨めする方 製造業、IT関連、建設関連、自治体関連、研究開発分野の経営幹部、PMO、プロジェクトマネジャー、リーダー、メンバー

■講師略歴 1959年生まれ。(株)ビーイング取締役。日本TOC推進協議会理事。84年京セラ(株)に入社。主にハイテク技術開発のマーケティング強化に取り組む。2003年、ヘッドハンティングされ、土木積算業界のソフトでトップシェアを誇る(株)ビーイングに入社。その活動は、幅広い分野で目覚ましい成果をあげ、ゴールドドラット博士からも高い評価を得ている。講演は、わかりやすく、実践的との定評がある。昨年PMフォーラム2006で発表した「三方良しの公共事業改革」は国土交通省の政策に今年から正式に取り上げられた。

E-1 プロマネはなぜチームを壊すのか

8/31 10:00 本物のプロジェクトマネジャーになる

アイシンク株式会社 代表&CEO 伊藤 健太郎

■セミナーの狙い プロジェクトを遂行するのはメソドロジーではなく、生身の人間である。プロジェクトマネジメントの知識体系はプロジェクトでの問題発生確率を低下させるのに役立つツールであるが、それを最大限に利用できるかどうか、また問題発生時に適切な対応ができるかどうかはプロジェクトマネジャーのヒューマンスキル(人間力)が大きく影響する。今回は、プロジェクトマネジャーに必要なヒューマンスキルについて自覚、チームのパフォーマンス向上、組織のサポートの視点から検討していく。

■セミナーコンテンツ 1. チームのパフォーマンスとプロマネの責任 2. 組織(PMO)のサポートのあり方 3. プロジェクトマネジャーの人間力の正体

■受講をお奨めする方 プロジェクトを成功させることに責任を持つ意志のある方

■講師略歴 福岡生まれ。九州大学大学院を卒業後、NKK(現JFE)にて、船用エンジンの製造、環境プラントの設計、プロジェクト業務に携わる。2000年にプロジェクトマネジメント専門のコンサルティング・トレーニングを行うアイシンク株式会社を設立。著作として、「成功するプロジェクトマネジメント」(中央経済社)、「戦略的エンタープライズ・プロジェクトマネジメント」(翻訳、生産性出版)、「プロジェクトはなぜ失敗するのか」(日経BP社)、「プロマネはなぜチームを壊すのか」(日経BP社)などがある。

F-1 21世紀におけるPM技術とは?

8/31 10:00 遂行技術基盤の改革・改善と技術リーダー育成法

日揮プロジェクトサービス株式会社
顧問 高橋 良之

■セミナーの狙い エンジニアリング業界は21世紀に入り景気回復の兆候が始め受注が好調になりつつある、その一方、エンジニアの高齢化、エンジニアの不足の2つが大きな改革・改善のポイントになってきている。その対策として多くスムーズな世代交代を期待しつつも、かならずしも若手のPM、技術リーダーへの遂行技術(トラブル、コストダウン、評価基準等)の伝承・指導が上手くいっていないのが現状である。各実務担当者の想像以上の努力にもかかわらず、思わぬミス、リサイクル作業の増加が発生し、プロジェクトの採算性を悪くしている。またエンジニアの不足を補う対策として国内外の外部リソースの積極的な活用をおこなっているが、外部リソースを積極的活用できるPM、技術リーダーが非常に不足している。その改革・改善のヒントとして①個人としてPM、技術リーダーが早急に具備・修得すべき遂行技術は何か? ②PM・技術リーダーが最大限能力を発揮できる企業のエンジニアリング遂行基盤(例: エンジニアリングプラットフォーム)はないか? について経験を混えて本講演で説明する。

■講師略歴 昭和39年日揮入社、国内・海外の石油精製、石油化学、化学、食品加工、FA関連プロジェクトをプロジェクト エンジニア、エンジニアリングマネジャー、プロジェクトマネジャー、事業部長として担当。現在、日揮プロジェクトサービス(株)の顧問。プロジェクト・マネジメント講座(ENAA)の講師、プロジェクト・マネジメントを基盤とした効果的なプロジェクトの遂行についての講師(PMAJ)、エンジニアリング遂行技術アップのためのコンサルティング。

E-2 構えろ、狙え、撃て

8/31 13:45 正しいことを正しく行うために

プラネット株式会社 代表取締役 中嶋 秀隆

■セミナーの狙い 「正しいことを正しく行え」という考え方は、プロジェクトマネジメントの世界では常識化してきた。しかし、これは口で言うほどやさしくはない。獲物を銃でしとめる時には「構えろ、狙え、撃て」という行動をこの順番に従って行う。このことに異論はないだろう。しかし、プロジェクトの現場では、「構えろ、狙え、撃て」の悪しきバリエーションが少なくない。その典型例が「撃て、構えろ、狙え」である。ここでは、多くのプロジェクトの実態が「撃て、構えろ、狙え」になってしまう背景やその影響、防止策について、いくつかの視点・観察を紹介し、聴衆のコメントをいただきたい。

■セミナーコンテンツ ①「構えろ、狙え、撃て」 ②ストックデールの逆説 ③「底打ち感」を支えるもの ④プロジェクトのスコープ定義・変更管理とプロジェクト・マネジャー ⑤「正しいことを正しく行う」ために

■受講をお奨めする方 プロジェクトのあるべき姿を、原則に立ち返って見直してみたい方。プロジェクトの現状に問題があると感じている方。プロジェクトのスコープ定義や変更管理につき、改善したいと望んでいる方。

■講師略歴 プラネット(株) 代表取締役社長。PMP®。同社はPMの公開セミナーでわが国最多の実績を誇り、多くのプロジェクト・マネジャーやPMP®を輩出。さらに、プラネットに続き、(株)ロゴで「クリティカル・チェーン」、スマートビジョン(株)で「パーソナルPM」を展開。京セラ、インテルなど、日米の有力企業に約20年間勤務。インテルでは「ベンティアム」の量産他仕上げプロジェクトに参画。慶応大学非常勤講師、中京大学大学院客員教授。PMの定番書籍である「IPMプロジェクト・マネジメント」など、著書・訳書多数。

F-2 プロジェクトを成功させる見積りモデルの構築と維持・改善

8/31 13:45 CoBRA法による見積りモデル構築とその活用方法について

(株)三菱総合研究所情報技術研究センター 主席研究員
(兼任)IPAソフトウェアエンジニアリングセンター エンタプライズサプリーダ 石谷 靖

■セミナーの狙い プロジェクトの工数、工期の見積りはプロジェクトの成否に大きな影響を及ぼす重要な活動だが、納得できる見積りモデルが見つからず、その場限りのやり方がなされる例が多い。背景には、システム開発への影響要因が多く見積りにばらつきが避けられないのに、その定量化が難しいことがある。過去データでの要因分析は、分析もさることながら多数のデータ収集のハードルも高い。本セミナーでは、適用事例に基づき、少数の蓄積データと熟練者の経験の組合せにより、説明力の高い見積りモデルを構築する方法(CoBRA法)を紹介する。さらに、見積り精度向上のためのモデルの改善方法も解説する。なお、見積り精度向上には見積りに関連する組織プロセスの成熟度合いも重要であることも示す。

■セミナーコンテンツ
・見積りを取り巻く課題と解決の方法
・見積りモデルの構築と改善
基本的な考え方/CoBRA法による見積りモデルの構築/見積りモデルの改善方法
・見積り精度向上のための組織プロセスの成熟

■受講をお奨めする方 PMOやプロジェクトマネジャーなど組織的に見積り方法を構築を考え、現場で活用しようと考えている方

■講師略歴 1988年(株)三菱総合研究所に入社。ソフトウェア開発環境や品質メトリクス計測システム等の構築やユーザ企業のソフトウェア調達ガイドライン作成に従事。最近5年間は、ソフトウェア開発プロジェクトのマネジメントやプロセス改善に関する実態調査や技術調査を実施し、その一環として、情報処理推進機構(IPA)のソフトウェア・エンジニアリング・センター(SEC)設立を支援し、'04年4月にSECに出向、同年10月からエンタプライズ系サプ・リーダ。'07年4月三菱総合研究所に帰任し現職。IPA/SEC専門委員。

G-1 失敗プロジェクトを削減する要件確定前進の試み
8/31 10:00 S社における要件確定研修の成果事例報告
システム企画研修株式会社
代表取締役 上野 則男

■ **セミナーの狙い** 失敗プロジェクトの原因の大半は、契約を含めた上流にあることは周知の事実となっている。S社では失敗事例を分析し、機能要件の詰め方、非機能要件の確実な把握方法、見積り・契約のあり方、仕様変更対応の方法、ヒアリング手法、交渉術などの研修・訓練を行った上で、学習したことの実践をし、その結果を報告する訓練コースを開発し、実施中である。その内、機能要件の詰め方に関しては、「開発目的の明確化」を中核に据えている。

目的の明確化は、あらゆる案件で重要なことという認識はありながら、実践は非常に不十分な状況である。目的を明確化する訓練成果が、S社では次々と実現している。その状況を報告する。

■ **セミナーコンテンツ** 1. 要件確定力強化研修開発の背景 2. 同研修の内容 3. 開発目的明確化とは 4. 開発目的明確化の効用

■ **受講をお奨めする方** ①失敗プロジェクトを削減したい経営者・プロマネの方 ②失敗プロジェクトの削減をミッションとしているスタッフの方 ③プロジェクトの成功条件を探求している方

■ **講師略歴** システム企画研修(株)代表取締役。1961年東大経済学部卒。帝人、日本能率協会などを経て、1984年目的重視思考をベースにしたシステム企画方法論MIND-SAの提供・研修会社を創業し、現在に至る。著書に「業務革新ガイドブック」「システム部門変革ガイドブック」「価値目標思考のすすめ(NTT出版)」などがある。MIND-SA研修の受講者は4万人以上。

G-2 曖昧性やあるべき論を許容するマネジメント
8/31 13:45 PMの心得と行動は？
有限会社ウィンアンドウィン
代表取締役 近藤 哲生

■ **セミナーの狙い** プロジェクトマネジャーを困らせている問題に、プロジェクトの「曖昧性」の存在と「あるべき論」を振りかざした組織の締め付けがある。プロジェクトマネジャーにとって曖昧性の存在やあるべき論は本当に迷惑なモノであろうか。一方で、プロジェクトマネジャーには、曖昧性の中から具体的な作業を作り出し、あるべき論のもとで所定の作業を完遂させることが期待されている。プロジェクトの中での曖昧性の存在とあるべき論の正体は何か。また、曖昧性とあるべき論の関係性と功罪について考える。そして、これらの存在を認め合い、むしろこれらの条件を強いプロジェクトを作る原動力していく方法について考える。

■ **セミナーコンテンツ** プロジェクトに潜む曖昧性とあるべき論の正体。曖昧性の存在を認めることによるマネジメントの内容や方法の変化。曖昧性やあるべき論を建設的な問題提起と捉えるマネジメントの視点。強いプロジェクトをつくる仕掛け。進化し続ける組織の条件。

■ **受講をお奨めする方** 曖昧性とあるべき論のはざまで困っていたり、全員が納得するマネジメントをしたいと考えているプロジェクトマネジャーやプロジェクトリーダー。

■ **講師略歴** 1946年愛媛県生まれ。日立製作所に入社。情報・通信システム、艦船搭載システムなどの開発に従事。技術的、納期的に苦戦するプロジェクトの立て直しを数多く経験する中から、独自の「プロジェクトを成功させる方法論」を見いだす。特に、個人と組織の関係性に着目した「自律的な学習するチームづくり」を促進するプロジェクトマネジメント方法論の確立に取り組んでいる。2002年、PMの技術コンサルタント会社ウィンアンドウィン設立。著書「実用企業小説 プロジェクトマネジメント」日本経済新聞社発行 他。

K 「ふりかえり」によるITプロジェクト
8/31 10:00 カイゼンワークショップ
株式会社永和システムマネジメント コンサルティング事業部
事業部長 天野 勝

■ **ワークショップの狙い** 変化の激しいビジネスを支えるITシステムを構築するには、プロジェクトはその変化に振り回されるのではなく、変化に追従する必要がある。プロジェクトが環境に適合して自ら変化する「カイゼン」や、そのカイゼンを推し進めるための「現場力向上」が求められている。本ワークショップでは、ITプロジェクトにカイゼンを導入するための「ふりかえり」という考え方を紹介し、具体的な手法としての「KPT」を実習を通して、体験から学んでいただくものである。

■ **ワークショップコンテンツ** ふりかえりの手順、KPT、カイゼンの原則、解決指向型と原因追求型、ふりかえりを促進するツール

■ **受講をお奨めする方** ITプロジェクトの現場にカイゼンを導入しようと考えているプロジェクトマネジャー、およびチームリーダー。「現場力向上」に関心のある方。

■ **講師略歴** 株式会社永和システムマネジメントにおいて、オブジェクト指向をはじめとするソフトウェア開発技術および、アジャイルソフトウェア開発プロセスの導入に関するコンサルタントとして活躍。日本XPユーザーグループ企画スタッフ、アジャイルプロセス協議会 運営委員などを務める。著書：「eXtreme Programmingテスト技法 - xUnitではじめる実践XPプログラミング」(共著)、「アジャイルソフトウェア開発スクラム」(共訳)、その他、雑誌への寄稿多数。

L WBS活用の基本
8/31 10:00 どのように作り、使い、使えるか
有限会社デム研究所
代表取締役 城戸 俊二

■ **ワークショップの狙い** WBSはチームでものごとを進める際の柱となる枠組みであり、ステークホルダーが協働テーマの進捗状態を共通に認識するためである。昨今、パフォーマンスマネジメントが重視されるようになって来たが、これにはタスクの中身の確に把握することは勿論、その作業の時間や遂行資源との関係を統合的にマネージすることが必須である。本講座はWBSが持つ「要」の機能を正しく理解し、その機能に合う品質のWBSを作る要領を研修する。即ちWBSを作るに当たってスケジュールやプロジェクト実行組織、ステークホルダーなどとの関連を、どの時点でどのように勘案し、整合を取り、その結果どのように活用できるかを、演習を介してビジュアルに理解を深める。

■ **ワークショップコンテンツ** WBSやスケジュール、プロジェクト組織に関する基本的な知識をおさらいした後、数名毎のグループに分かれて、演習キットを用いてWBS、スケジュール、役割分担表を、順次立体的に組立てる。演習プロジェクトのシナリオは汎用性を考慮して「マイホーム建設」とする。

■ **受講をお奨めする方** WBS活用のスキルを高めたい方。但しPMBOK®入門相当の理解をしていること。

■ **講師略歴** 昭和37年 九州大学工学部卒、同年4月 東洋エンジニアリング(株)入社。同社でPE、PM、PCM、PMS技師長などに従事、平成10年 定年退職。同年(有)デム研究所を設立、PM教育講師、企業のPM手法導入、業務機能分析支援などで現在に至る。【PM関係社会活動】平成6年(ENAA)PMSS分科会長、平成7、8年(同)CAE/PMSS分科会長および幹事、平成2~10年(同)PM講習会講師。現在PMAJ理事、同PMリソースセンター長。

H-1 コンフリクト・マネジメント
8/31 10:00 多様化する職場での協調的問題解決とは？
株式会社オイコス
メンター 鈴木 有香

■ **ワークショップの狙い** 従来の均質性を前提とした雇用環境の変化を視座に入れ、多様性を前提とした視点から職場の問題、ビジネスの問題を捉えるコンフリクト・マネジメントの基礎を紹介する。また、Win-Winという概念を体感し、協調的問題解決の視点からの交渉、問題分析をケース・スタディーを通じて学ぶ。

■ **ワークショップコンテンツ** コンフリクト・マネジメントストラテジーとその選択、協調的問題解決モデルの紹介、ケース・スタディー、一部体験学習やグループ・ディスカッションを含む。

■ **受講をお奨めする方** 基礎的なマネジメント・スキル、職場での問題解決能力にご関心のある方々

■ **講師略歴** 早稲田大学紛争処理研究所研究員、株式会社オイコス、メンター。異文化教育コンサルタント。コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ(米国)にて修士号、上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程満期退学。コンフリクトマネジメント、多様性研修、異文化研修、リーダーシップ研修を一部上場企業(外資系、日系)を中心に担当。また、法律家に対するADR研修も精力的に行っている。著書に「交渉とメディエーション」、文部省検定教科書「On Air」(共著)など。

H-2 プロジェクトの元気はPM自身の元気から
8/31 13:45 モティベーションのマネジメント
法政大 松尾谷 徹、(株)富士通アドバンスソリューションズ 宮下 圭一
富士通(株) 松田 浩一、(株)CIJ 石田 誉幸

■ **ワークショップの狙い** トップアスリートやエキスパートはメンタルトレーニングに多くの時間をかけている。何故ならば、メンタル状態は成果に大きな影響力を持っているが、常に維持することができないからである。プロジェクトの成果はメンバーのスキル状態とメンタル状態の影響を強く受ける。スキル状態は、経験と共にどんどん蓄積するが、メンタル状態は頑張れば消耗し、維持することができない。優秀なPMは、良いメンタル状態＝「プロジェクトの元気」をうまく制御する業を持っている。もうひとつ大切なことは、PM自身が良いメンタル状態でないと、「プロジェクトの元気」をマネジメントすることが困難なのである。このセミナーでは、PM自身のモチベーション回復からプロジェクト元気へと導く実践事例や、基礎理論(組織行動学)について分りやすく解説する。

■ **ワークショップコンテンツ** PS(パートナー満足)研究会とそのメンバーが実践し、成果を出した、各種「モチベーション向上策」をセミナー用にアレンジした。

■ **受講をお奨めする方** メンバーのやる気、または、自分自身の元気に問題を感じているPMやチームリーダー

■ **講師略歴** PS研究会/MM4は、第一線で活躍するPMが中心となりプロジェクトを元気にする向上対策、元気を奪うダメな事例、元気を診断するPS診断の研究を行っている。今回の発表は、MM4の成果をまとめた。松尾谷 徹 PS研究会代表、法政大兼任講師、博士 宮下 圭一 (株)富士通アドバンスソリューションズソリューションズ本部プロジェクト統括部長 松田 浩一 MM4代表 富士通 ネットワークソリューション事業本部 プロジェクト統括部長 石田 誉幸 (株)CIJ SIビジネス事業部副事業部長

M 現場力を向上させるプロジェクトファシリテーションの実践
8/31 10:00 体験して学ぶプロジェクトファシリテーション
松本屋 松本 潤二

■ **ワークショップの狙い** チームの状態をプロジェクトファシリテーターがどのように捉えるのか? チームの状態に対してどのように働きかけることができるのか? ソフトウェア開発のプロジェクトをファシリテートする方法を講義と体験を通して自らの知識と経験として学習する。

■ **ワークショップコンテンツ** プロジェクトファシリテーションの概略、情報認知や心理学的観点、コミュニケーション手法。知識を体現するためのワークショップ。講義とワークショップを織り交ぜて実施。

■ **受講をお奨めする方** ソフトウェア開発の現場で悩みを持っているプロジェクトマネジャーおよびチームリーダー。また、ファシリテーションに興味があり、自分が実践する意欲のある方。

■ **講師略歴** 中小のソフトウェアハウスにてシステム開発を経験後起業、現在フリーランス。主にシステム開発の現場で、アジャイルなチーム作りと、プロジェクトファシリテーションを実践する。また、2005年より個人や組織を対象としたコーチングを行う。コンピュータ技術系やコミュニケーション系の研修講師やワークショップのリードを行う。

